

留学生の国内就職の促進について

留学生の国内就職を巡る現状

○ 留学生の専攻は人文・社会科学系が約3分の2を占めるのに対し、企業側の求人は理・工学系が約3分の2を占めている。

(参考1) 留学生(その6割強が中国人留学生)の専攻分野別割合

- ・ 人文・社会科学の専攻者 63.6%
- ・ 理・工学等自然科学の専攻者 18.9%

(資料出所: 日本学生支援機構)

(参考2) 平成19年度留学生求人職業別状況

・ 情報処理技術者	33.6%	・ 事務	7.4%
・ 機械技術者	11.1%	・ 貿易事務	5.6%
・ 営業	19.3%	・ 翻訳・通訳	3.1%
・ 電気・電子技術者	9.0%		

(厚生労働省職業安定局調べ)

○ 我が国企業に就職する留学生の数は着実に増加。

(参考3) 留学生等からの就職目的の在留資格変更件数

・ 許可件数	平成14年	⇒	平成19年
	3,209		10,262

○ 留学生・外国人の活用に消極的な企業がなお多い。

(参考4) ・ 日本企業で働く元留学生の50.7%が「**留学生を採用する企業が少ない**」、50.3%が「**留学生に対する求人が少ない**」
 ・ 留学生を採用しなかった理由として、「**社内の受入れ体制が未整備**(コミュニケーションの問題等)」が44.9%、「**外国人の採用自体に消極的**」が43.8%

(資料出所: (独)労働政策研究・研修機構)

○ 留学生と日本企業のニーズは「語学力の活用」という点ではマッチングしているが、留学生に本来求められるはずの「学校で学んだ専門性を活かす」や「外国人ならではの技能・発想を取り入れる」という点ではミスマッチ。

(参考5)

- ・ 日本企業に就職した元留学生の就職理由 ⇒ 「母国語や日本語などの語学力を活用したいから」が48.9%、「**日本の学校で学んだ専門性を活かしたい**」が**35.3%**
- ・ 留学生を実際に採用した企業の採用理由 ⇒ 「職務上外国語の使用が必要なため」が36.4%、「**外国人ならではの技能・発想を取り入れるため**」が**9.4%**

(資料出所: (独)労働政策研究・研修機構)

○ また、将来のキャリアや労務管理施策についても企業側の対応と留学生の希望との間にギャップ。

(参考6)

将来のキャリア	元留学生側 ⇒ 「海外の現地法人の幹部」が31.6%、「高度な技能・技術を活かす専門人材」が25.5%(理系では48.5%) 企業側 ⇒ 「海外の現地法人の幹部」が 9.8%、「高度な技能・技術を活かす専門人材」が15.5%
定着のための 要望・取組み	元留学生側 ⇒ 「異文化理解」が64.9%、「外国人向け研修」が40.5%、「短期間でもキャリア形成できる多様なコース」が31.0%
	企業側 ⇒ 「異文化理解」が14.7%、「外国人向け研修」が 4.4%、「短期間でもキャリア形成できる多様なコース」が 2.8%

- ・ 留学生が日本で就職を希望しない理由 ⇒ 「**外国人が出世するには限界**」が約35%
- ・ 元留学生のうち、日本企業への就職を勧めたくない理由として「**外国人が出世するには限界**」が73.1%

(資料出所: (独)労働政策研究・研修機構)

○ 留学生の就職活動の姿勢にも問題があるとされている。

- ・ 留学生は就職活動の開始時期が遅れがち。
- ・ 母国でも名の通った企業等のみ応募するなど大企業志向が強い。